

千葉市社会福祉協議会おゆみ野地区部会主催 上映会

認知症の母と耳の遠い父と離れて暮らす私

ぼけますから、



よろしくお願ひします。

ドキュメンタリー映画

広島県呉市。泣きながら撮った1200日の記録

日時：2022年2月5日（土）

【午前の部】10:00～12:00(定員100名)*整理券を9:30より配布します。

【午後の部】14:00～16:00(定員100名)*整理券を13:30より配布します。

場所：鎌取コミュニティセンター 3階 多目的ホール

参加費：無料 ◎千葉市在住の方に限ります。

◎裏面の注意事項を確認してご参加ください。

主催：千葉市社会福祉協議会おゆみ野地区部会

共催：鎌取コミュニティセンター

TEL:043-292-6131



監督・撮影・語り

ひとり娘

信友直子



カマウを向け、初めて気づいた。 両親がお互いを思い合っているということ。



**母、87歳、認知症。
父、95歳、初めての家事。**

広島県呉市。この街で生まれ育った「私」(監督・信友直子)は、ドキュメンタリー制作に携わるテレビディレクター。18歳で大学進学のために上京して以来、40年近く東京暮らしを続けている。結婚もせず仕事に没頭するひとり娘を、両親は遠くから静かに見守っている。

そんな「私」に45歳の時、乳がんが見つかる。めそめそしてばかりの娘を、ユーモアたっぷりの愛情で支える母。母の助けで人生最大の危機を乗り越えた「私」は、父と母の記録を撮り始める。だが、ファイナダーを通し、「私」は少しずつ母の変化に気づき始めた…

病気に直面し苦悩する母。95歳で初めてリンゴの皮をむく父。仕事を捨て実家に

帰る決心がつかず揺れる「私」に父は言う。「(介護は)わしがやる。あんたはあんたの仕事をせい」。そして「私」は、両親の記録を撮ることが自分の使命だと思い始め—

大反響のテレビドキュメンタリー、 待望の映画化。

娘である「私」の視点から、認知症の患者を抱えた家族の内側を丹念に描いたドキュメンタリー。2016年9月にフジテレビ/関西テレビ「Mr.サンデー」で2週にわたり特集され、大反響を呼んだ。その後、継続取材を行い、2017年10月にBSフジで放送されると、視聴者から再放送の希望が殺到。本作は、その番組をもとに、追加取材と再編集を行った完全版である。娘として手をさしのべつつも、制作者としてのまなざしを愛する両親にまっすぐに向けた意欲作。



港町呉は坂の多い町でもあります。買い物するにも一苦労。結婚以来、父と母はずっとここで暮らしてきました。



ひとり娘
ドキュメンタリー監督
信友直子

1961年広島県呉市生まれ。東京大学卒業。在京キー局で数多くのドキュメンタリー番組を手掛ける。放送文化基金賞奨励賞、ニューヨークフェスティバル銀賞、ギャラクシー賞奨励賞など受賞多数。



涙。椅子から立てないくらいの衝撃でした。(56歳女性)

いまだに涙がとまりません。思いやりが人生を豊かにすること。忘れずに生きていきたいです。(49歳女性)

まるでお家にお邪魔しているように。心がキューっと苦しくなったり、ぼっ、と心が温かくなったり。(29歳女性)

お三方の声のなんと優しいこと。こんな優しさに満ちた声の響きを聞いたことはありませんでした。(74歳男性)

番組にいただいた感想の一部です

考えさせられます。夫婦とは家族とは老いるとは…娘さんの泣きながらの撮影にもらい泣きました。(55歳女性)



プロデューサー:大島 新 濱 潤 共同プロデューサー:前田亜紀 堀 治樹 山口浩史 編集:目見田 健 実景撮影:南 幸男 音響効果:金田智子 ライン編集:池田 聡 整音:富永憲一 配給宣伝協力:ポレボレ東中野 ウッキー・プロダクション 製作・配給: Netzgen フジテレビ 関西テレビ 2018年/日本/102分/©「ほけますから、よろしくお願ひします。」製作・配給委員会

【注意事項】

- * 新型コロナウイルス感染症の影響その他諸事情により、中止となる場合があります。
- * 入場の際は、検温・手指消毒・マスク着用のご協力をお願いいたします。

